

俳句・随筆

やなぎ

柳

せいほ

星甫



防府市  
(1886～1960)

柳星甫は、俳人・随筆家。佐波郡西ノ浦（現・防府市西浦）生まれ。本名、義雄。大正二年、防府の車塚に耳鼻咽喉科医院を開業。大正五年五月、俳句結社・芳風吟社創設、俳誌『はまにかな』を発行する（七年六月終刊）。大正十三年三月から昭和十九年五月までは俳誌『めばえ』を主宰。ホトトギス派の俳人を数多く育てた。昭和二十二年一月、県医学界の総合機関紙『防長医界』を創刊。昭和三十二年八月の第百二十七号まで、十年間編集発行人を務めた。県俳壇の重鎮として、俳句振興活動に尽力。郷土史家でもあった。著書に『星甫随筆』他がある。

（森川信夫）

【主な著作】

『星甫随筆』（星甫随筆刊行会、昭和33年）

『森鷗外の父 森静男のこと』

（防長医界社、昭和22年）

『重源上人七百五十年祭献詠集』編集

（俊乗坊重源顕彰会、昭和28年）